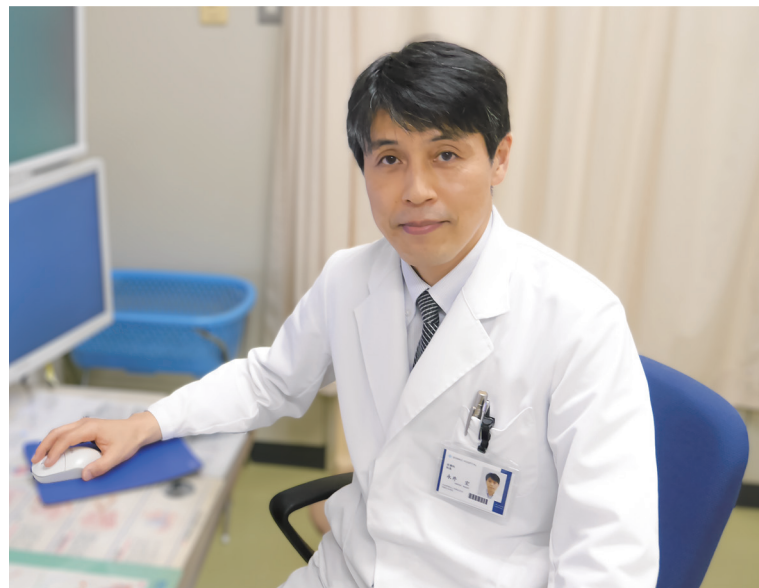


診療科紹介 皮膚科  
乾癬について

はじめに

2020年10月に神鋼記念病院皮膚科に着任した永井です。生まれ育った神戸の地域医療を担う神鋼記念病院で診療できることを嬉しく思っています。前任の神戸大学医学部附属病院では、長年にわたり診療、教育、研究に従事してまいりました。大学病院では、診断や治療に難渋する症例の紹介が多く、そうした症例の診断や治療に従事して得た経験は私にとって大きな財産となっています。その経験を活かして地域医療に貢献できるよう頑張っていきますので何卒よろしくごお願い申し上げます。

私の主な専門分野は、乾癬やアトピー性皮膚炎を代表とする皮膚炎症性疾患、ならびに水疱症や膠原病などの自己免疫関連疾患です。こうした疾患では、治療効果が十分に得られない、あるいはいったん軽快しても再燃を繰り返すということも多く、患者さんの quality of life (QOL) を大きく損なうことが知られています。しかし、最近は生物学的製剤をはじめとする新しい治療薬が次々と登場し、患者さんの QOL を大きく改善させることが可能になりました。今回は、皮膚科領域で最も治療の進歩がめざましい乾癬について紹介させていただきます。



皮膚科 部長 永井 宏

神戸大学を平成4年に卒業。  
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医  
などの資格を持つ。



## ■ 乾癬について

乾癬はアトピー性皮膚炎と並ぶ慢性皮膚炎症疾患の代表です。乾癬の中で最も多い尋常性(局面型)乾癬は図1のような厚い鱗屑と紅色局面が典型像ですが、小型で鱗屑が目立たないタイプ、頭皮病変あるいは爪病変のみから発症するタイプもあり、診断時に注意が必要です。乾癬患者さんでは、肥満、糖尿病、高血圧などメタボリック症候群の合併が有意に高いことが知られており、乾癬自体が心血管イベントのリスク因子という指摘もあります。そのため、乾癬の診療に当たっては上記の合併の有無をスクリーニングしていく必要があります。また関節炎の合併(乾癬性関節炎)にも注意が必要で、診断・治療が遅れると不可逆性の関節の変形や破壊をきたします。乾癬の皮疹が乏しい場合や爪病変のみの場合は、乾癬性関節炎の診断がなされず原因不明として見過ごされているケースもしばしば経験します。

治療は図2に示す多種多様な治療を組み合わせで行っていきます。2010年に生物学的製剤であるtumor necrosis factor (TNF) 阻害薬(インフリキシマブ、アダリムマブ)が保険適応となり、乾癬の治療が大きく変わりました。現在では、interleukin (IL)-17 や IL-23 を標的とした製剤を含めて10種類の生物学的製剤が適応となっており、既存治療では難治であった症例でも寛解に導くことが可能となりました。これらの製剤は乾癬性関節炎にも高い有効性を示し、乾癬患者さんのQOL改善に大きく貢献しています。また2017年に発売

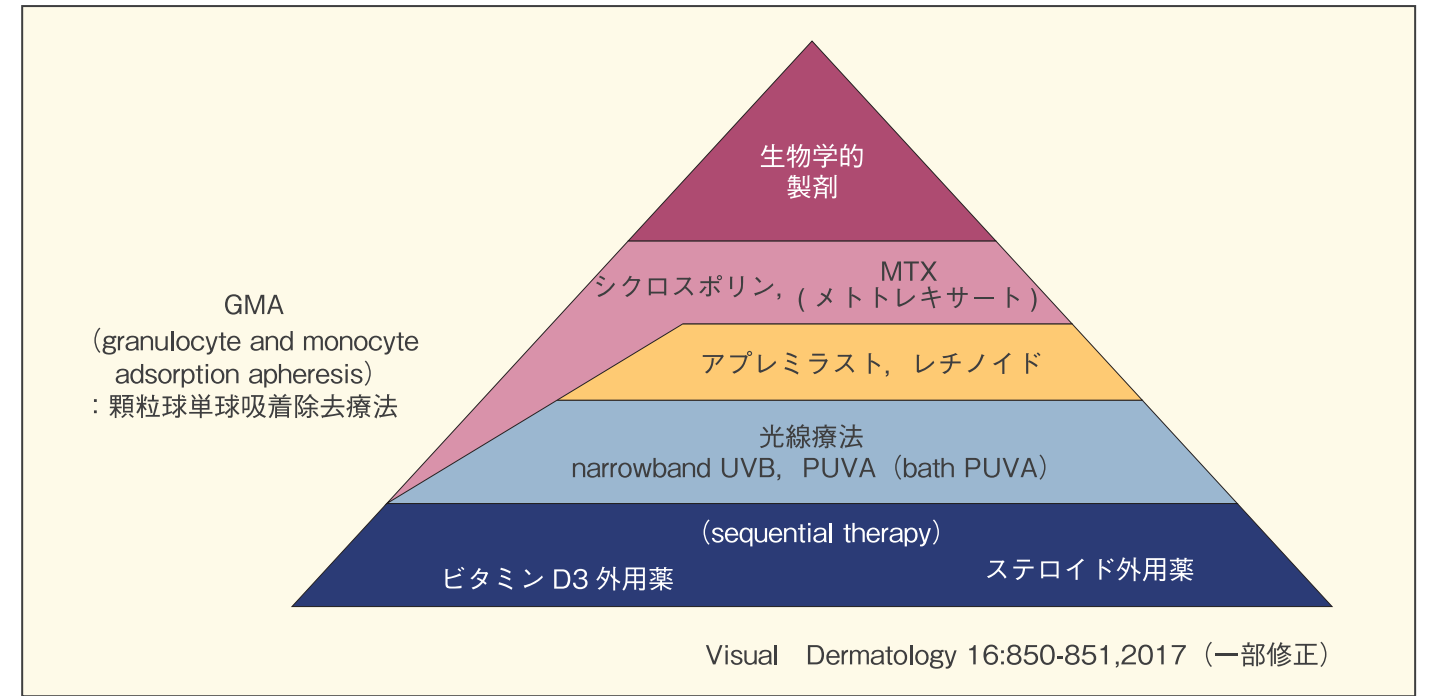
図1 尋常性(局面型)乾癬



されたアプレミラストも乾癬治療の進歩を語る上で外せない薬剤です。この薬剤は、炎症を引き起こす物質の産生にかかわっているホスホジエステラーゼ4 (PDE4) の働きを抑え、炎症反応を抑制します。臨床試験成績では生物学的製剤ほど有効性は高くありませんが、個疹が小さいなど症例を選べば高い有効性を示す印象があります。この薬剤は、免疫抑制作用を有さないため重篤な副作用も少なく、生物学的製剤が使用できない患者さんにも投与可能であり、貴重な治療選択肢の1つとなっています。

当院は日本皮膚科学会より、乾癬に対する生物学的製剤使用承認施設として承認されているため、図2に示すほぼ全ての治療を施行可能です。関節炎合

図2 乾癬治療のピラミッド計画(2017年改訂)



併症例に対しては、当院の膠原病リウマチセンターとの連携により、専門的な評価および治療が可能な状態です。メタボリック症候群など合併症が存在する場合は、心血管イベントの発症を回避すべく当院内科や近隣医療機関との連携を図っていきます。

## ■ おわりに

当院皮膚科は、日本皮膚科学会認定専門医2名が常勤医師として在籍し、皮膚疾患全般を対象に診療を行っています。また2名の非常勤医師(い

ずれも皮膚科学会認定専門医)の協力のもと、栄養面からの治療アプローチを組み入れた診療や、質の高い病理診断が可能となっています。今回は乾癬について紹介させていただきましたが、アトピー性皮膚炎や蕁麻疹をはじめとする種々の皮膚疾患にも、有効性の高い生物学的製剤や新しい治療薬が登場しています。当院皮膚科では、最新の治療選択肢から患者さんの状態やニーズに応じた最良の治療を提供できるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 開業医探訪

Vol.155

## 岩城整形外科クリニック

今回の開業医探訪は、JR摩耶駅北ロータリーからすぐ。摩耶クリニックビルにある岩城整形外科クリニックへ訪問しました。

### — 診療を開始されてどれくらいになりますか？

2018年5月に開業致しました。東灘区で生まれ育ち馴染みがあったことや前任地から近い場所で探していたところ、ちょうど駅前に見つけることができたため決めました。

### — どのような患者さんが来院されますか？

整形外科が扱う疾患から、ご高齢の方が多くいるものと考えておりました。しかし当院の場合は、小さなお子さんやその親御さん、30代~50代の働き盛りの若年者が腰や肩・首・膝の不調で非常に多く来院されます。近隣にマンションが多く建設されるようになり、ファミリー層が多く住まれるようになったことが要因かと考えています。

### — 診療にあたり心掛けていることは何ですか？

分かりやすい説明に努めております。そのためには診察や画像等を通じてきっちりと診断しなければなりません。そのうえで、部位ごとの模型を使いながら視覚的にも理解できるように心掛けています。

### — ひとつこと

病院の機能分化やコロナ禍で、最近は初診で大きな医療機関に行きづらくなっています。そのためクリニックの役割は非常に大きくなっています。「こんなことで受診して申し訳ないです」と言われる方がおられますが、何かおかしいと思ったら気軽に相談にきてもらえる、そんな身近な存在でありたいと考えています。

## 岩城整形外科クリニック

〒657-0835 兵庫県神戸市灘区灘北通 5-5-1  
摩耶クリニックビル2階

TEL : 078-414-8651

院長：岩城 公一

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	/
15:00~18:00	○	○	○	/	○	/	/

休診 木曜午後、土曜午後、日曜、祝日